

2007年9月期 第3四半期決算説明資料

2007年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

本日ご説明申し上げる業界の動向や分析、今後の見通し、戦略等は、現在入手可能な情報から弊社グループの経営陣が判断したものでありますが、様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することも考えられます。

従いまして、将来の戦略及び業績等につきましては本日ご説明申し上げます内容と異なる可能性がございますことをご了承下さい。

目次

2007年9月期第3四半期決算

財務ハイライト

4	第3Qまでの売上高・利益の状況
5	連結P/L
6	連結B/S
7	四半期連結業績推移表
8	個別P/L
9	個別B/S
10	個別/業務部門別 - 売上高構成・原価率・利益率表
11	連結/事業部門別 - 売上高構成表
12	連結SPCの保有物件売却による 当社連結損益への影響について
13	補足資料 現預金及び投融資残高の推移(連結)

営業概況説明

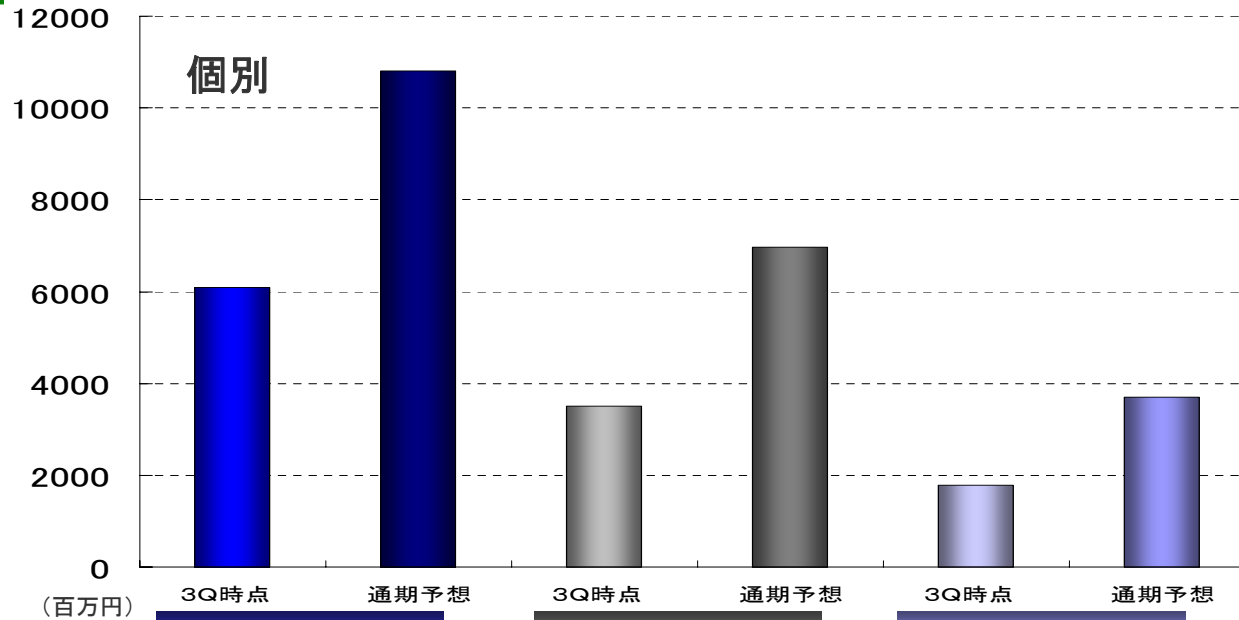
15	2007年9月期 第3四半期 営業概況 総括
16	4Qでの取組み
17	持続的な収益の成長力
18	投資銀行事業/アレンジャー業務
19	投資銀行事業/信用補完付アレンジメント
20	投資銀行事業/プリンシパルファイナンス業務
21	投資銀行事業/その他投資銀行業務
22	再保険保証事業
23	プリンシパルファイナンスのポートフォリオ
24	FGIの開発型証券化アレンジにおける複数の収益機会
25-26	メリルリンチとの共同出資によるJVのスタート
27	補足資料 FPI事業概要

グループ会社実績

29	FGIグループ相関図
30-32	グループ会社別業績進捗の状況

第3四半期決算 財務ハイライト

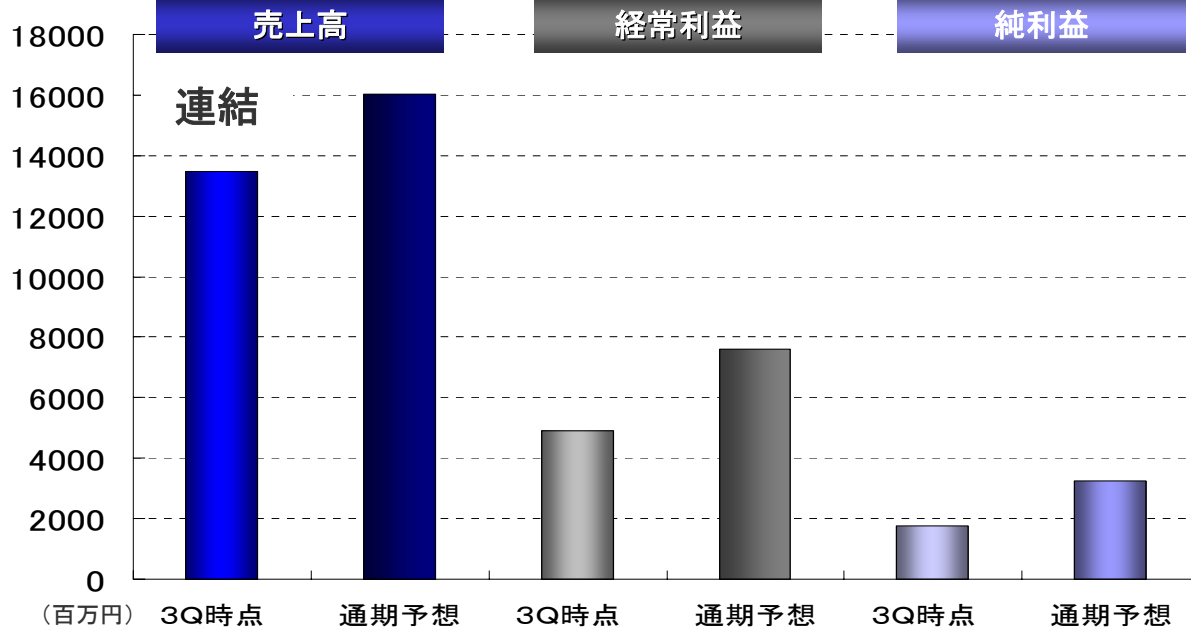
第3Qまでの売上高・利益の状況



個別

(単位:百万円、%)

2007年9月期		
売上高		進捗率
3Q時点	通期予想	56.3
6,079	10,800	
経常利益		進捗率
3Q時点	通期予想	50.3
3,510	6,975	
純利益		進捗率
3Q時点	通期予想	48.4
1,791	3,699	



連結

(単位:百万円、%)

2007年9月期		
売上高		進捗率
3Q時点	通期予想	84.1
13,478	16,032	
経常利益		進捗率
3Q時点	通期予想	64.3
4,890	7,606	
純利益		進捗率
3Q時点	通期予想	53.9
1,752	3,249	

連結P/L

(単位: 千円、%)

	06/9第3四半期		07/9第3四半期		06年9月期	
売上高	5,021,558	100.0	13,478,385	100.0	8,231,713	100.0
投資銀行事業	4,889,308	97.4	5,874,935	43.6	7,745,562	94.1
1 再保険保証事業	132,250	2.6	1,433,480	10.6	476,277	5.8
エフエックス事業	—	—	1,221,214	9.1	—	—
不動産関連事業	—	—	3 4,948,754	36.7	9,873	0.1
売上原価	332,721	6.6	5,077,000	37.7	622,716	7.6
2 売上総利益	4,688,837	93.4	8,401,385	62.3	7,608,997	92.4
販売費及び一般管理費	1,038,192	20.7	3,354,834	24.9	1,687,114	20.5
営業利益	3,650,644	72.7	5,046,551	37.4	5,921,883	71.9
営業外収益	34,847	0.7	384,433	2.9	59,091	0.7
営業外費用	284,546	5.7	540,334	4.0	399,883	4.9
経常利益	3,400,944	67.7	4,890,649	36.3	5,581,091	67.8
特別利益	—	—	11,720	0.0	—	—
特別損失	—	—	108,461	0.8	—	—
税金等調整前第三四半期純利益	3,400,944	67.7	4,793,908	35.6	5,581,091	67.8
法人税等調整額	1,416,335	28.2	1,843,921	13.7	2,581,258	31.4
少数株主損益	26,719	0.5	△1,083,694	—	39,208	0.5
第3四半期(当期)純利益	2,011,327	40.1	1,752,623	13.0	3,235,755	39.3

1 3Qより連結対象

3 上記2のSPCの不動産売却による売上は3,658百万円

2 利益率の悪化(詳細12P参照)

ローンの8割以上を拠出していることなどにより連結の範囲に含めているSPCが、その所有不動産を売却したため、売上高約36億円、原価約25億円、経常約9億円を計上。しかしながら当該SPCの持分割合がゼロであったため、当該利益と同額の少数株主損益(△約9億円)を計上したことにより、四半期純利益における寄与はなし。

連結B/S

資産の部 (単位: 千円、%)

	07/9第3四半期		06年9月期	
流動資産	75,369,527	89.5	58,576,299	95.7
現金及び預金	14,935,767		18,907,675	
預託金	12,453,705	1	—	
売掛金	168,191		13,525	
営業投資有価証券	662,515		439,512	2
たな卸資産	3,343,915		8,586,337	
営業貸付金	38,693,300		29,406,589	
その他	5,227,286	3	1,310,878	
貸倒引当金	△ 115,153		△ 88,219	
固定資産	8,819,584	10.5	2,652,808	4.3
有形固定資産	247,376	0.3	68,471	0.1
無形固定資産	7,027,815	4 8.3	103,735	0.2
投資その他の資産	1,544,392	1.8	2,480,602	4.0
資産合計	84,189,111	100.0	61,229,108	100.0

負債の部 (単位: 千円、%)

	07/9第3四半期		06年9月期	
流動負債	27,924,409	33.2	14,028,576	22.9
短期借入金	5,668,000		6,330,500	
営業借入金	—		3,094,325	
顧客預り金	12,371,925	5	—	
一年以内返済予定 長期借入金	7,120,456		173,056	
その他	2,764,028		4,430,695	
固定負債	29,580,768	35.1	22,242,602	36.3
新株予約権付社債	22,170,000	6	20,000,000	
長期借入金	6,169,968		2,216,492	
その他	1,240,799		26,110	
負債合計	57,505,178	68.3	36,271,178	59.2

純資産の部 (単位: 千円、%)

	07/9第3四半期		06年9月期	
株主資本	24,974,129	29.7	24,859,644	40.6
資本金	10,697,909	12.7	10,624,769	17.4
資本剰余金	10,351,900	12.3	10,351,900	16.9
利益剰余金	3,924,319	4.7	3,882,974	6.3
評価・換算差額等	3,468	0.0	28,321	0.1
新株予約権	1,243	0.0	—	—
少数株主持分	1,705,091	2.0	69,963	0.1
純資産合計	26,683,933	31.7	24,957,929	40.8

1 FXO外国為替証拠金取引事業にかかる顧客分別預り金信託

2 連結対象であったSPCの連結除外によるもの

3 FXO外国為替差入証拠金、ステラ金銭信託

4 主にFXOのれん代 5 FXO顧客預り金

6 221億円のユーロ円CBの発行

負債純資産合計	84,189,111	100.0	61,229,108	100.0
---------	------------	-------	------------	-------

四半期連結業績推移

(単位: 百万円)

	05年9月期						
	第1Q	第2Q	上半期	第3Q	第4Q	下半期	通期(累計)
売上高	130	755	885	456	1,121	1,577	2,463
経常利益	8	520	528	233	809	1,042	1,571
	06年9月期						
	第1Q	第2Q	上半期	第3Q	第4Q	下半期	通期(累計)
売上高	1,036	1,856	2,892	2,128	3,211	5,339	8,231
経常利益	672	1,318	1,990	1,409	2,182	3,591	5,581
	07年9月期						
	第1Q	第2Q	上半期	第3Q	第4Q	下半期	通期計画
売上高	2,512	3,639	6,151	7,326	—		16,032
経常利益	969	1,463	2,432	2,458	—		7,606

連結SPCの保有物件売却により、
売上高に36億、経常に9億を計上(詳細12P)

※ (ご参考)

	2004年9月期				
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	通期(累計)
売上高	134	300	86	423	945
経常利益	33	128	1	298	462

当社の場合、傾向的に第2Q、第4Qに売上が集中する傾向があります。

個別P/L

(単位: 千円、%)

	06/9第3四半期		07/9第3四半期		06年9月期	
売上高	4,844,525	100.0	6,079,714	100.0	7,544,427	100.0
売上原価	330,232	6.8	506,012	8.3	431,256	5.7
売上総利益	4,514,292	93.2	5,573,702	91.7	7,113,171	94.3
販売費及び一般管理費	794,342	16.4	1,635,912	26.9	1,297,778	17.2
営業利益	3,719,950	76.8	3,937,789	64.8	5,815,392	77.1
営業外収益	8,949	0.2	71,598	1.2	14,566	0.2
営業外費用	180,388	3.7	498,954	8.2	349,578	4.7
経常利益	3,548,511	73.3	3,510,434	57.7	5,480,380	72.6
特別損失	—	—	464,376	7.6	—	—
法人税、住民税及び事業税	1,415,645	29.3	1,306,295	21.5	2,450,597	32.5
法人税調整額	—	—	△51,582	—	△204,844	—
第3四半期(当期)純利益	2,132,866	44.0	1,791,345	29.5	3,234,627	42.8

1 上半期において、特殊要因費用が発生したため、販管費が増加したものの、3Qにおいては3Q予想値を下回る結果となった。
:FXO買収関連費用、IT・内部統制等増加費用

2 金融費用の計上の方法(売上原価と営業外費用の配分方法)の変更により、従来の方法に比べ、営業利益は162,124千円減少(経常利益には影響なし)

3 上半期において、貸倒引当金及び株式評価損を計上
:ASAPペイメントシステム

個別B/S

資産の部 (単位: 千円、%)

	07/9第3四半期		06年9月期	
流動資産	49,467,724	70.5	47,538,319	81.1
現金及び預金	6,268,652		10,139,618	
営業投資有価証券	437,554	1	439,512	
営業貸付金	38,584,500		36,066,589	
その他	4,177,016		892,599	
固定資産	20,748,514	29.5	11,056,818	18.8
有形固定資産	182,066	0.3	60,581	0.1
無形固定資産	6,947	0.0	5,949	0.0
投資その他の資産	20,559,500	29.3	10,990,286	18.8
資産合計	70,216,238	100.0	58,595,137	100.0

負債の部 (単位: 千円、%)

	07/9第3四半期		06年9月期	
流動負債	17,598,196	25.1	11,456,131	19.5
短期借入金	9,032,000		4,386,500	
営業借入金	—		3,094,325	
3				
その他	8,566,196		3,975,306	
固定負債	27,704,721	39.5	22,242,602	38.0
新株予約権付社債	22,170,000		20,000,000	
長期借入金	5,511,400		2,216,492	
その他	23,320		26,110	
負債合計	45,302,917	64.5	33,698,733	57.5

純資産の部 (単位: 千円、%)

	07/9第3四半期		06年9月期	
株主資本	24,908,608	35.5	24,882,715	42.5
資本金	10,697,909	15.2	10,624,769	18.1
資本剰余金	10,351,900	14.7	10,351,900	17.7
利益剰余金	3,858,798	5.5	3,906,045	6.7
評価・換算差額等	3,468	0.0	13,688	0.0
新株予約権	1,243	0.0	—	—
純資産合計	24,913,320	35.5	24,896,403	42.5
負債純資産合計	70,216,238	100.0	58,595,137	100.0

- 1 プリンシパルファイナンスの投融資額
総額: 39,021百万円
- 2 主な関係会社株式として
100億⇒ステラキャピタル、84億⇒FXO
- 3 営業借入金に関しては、第1四半期会計期間
から、短期借入金と長期借入金に区分して計上

個別/業務部門別 - 売上高構成・原価率・利益率表

(単位: 百万円)

売上高別 構成比	05年9月期	(構成比)	06年9月期	(構成比)	07年9月期第3四半期	(構成比)
売上高合計	2,463	100.0%	7,544	100.0%	6,079	100.0%
アレジャー業務	2,150	87.3%	4,679	62.0%	3,612	59.4%
アレンジメント	2,150	87.3%	3,739	49.6%	3,084	50.7%
信用補完付アレンジ	0	0.0%	939	12.4%	528	8.7%
プリンシパル業務	257	10.4%	2,637	35.0%	2,132	35.1%
その他投資銀行業務	56	2.3%	227	3.0%	333	5.5%

売上原価率	05年9月期	(原価率)	06年9月期	(原価率)	07年9月期第3四半期	(原価率)
売上原価合計	306	12.4%	431	5.7%	506	8.3%
アレジャー業務	257	12.0%	319	6.8%	147	4.1%
アレンジメント	255	11.9%	286	7.7%	130	4.2%
信用補完付アレンジ	2	—	32	3.5%	17	3.2%
プリンシパル業務	48	18.9%	112	4.2%	356	16.7%
その他投資銀行業務	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%

売上高総利益率	05年9月期	(利益率)	06年9月期	(利益率)	07年9月期第3四半期	(利益率)
売上総利益	2,157	87.6%	7,113	94.3%	5,573	91.7%
アレジャー業務	1,892	88.0%	4,359	93.2%	3,465	95.9%
アレンジメント	1,894	88.1%	3,453	92.3%	2,954	95.8%
信用補完付アレンジ	-2	—	906	96.5%	511	96.8%
プリンシパル業務	208	81.1%	2,525	95.8%	1,776	83.3%
その他投資銀行業務	56	100.0%	227	100.0%	332	99.7%

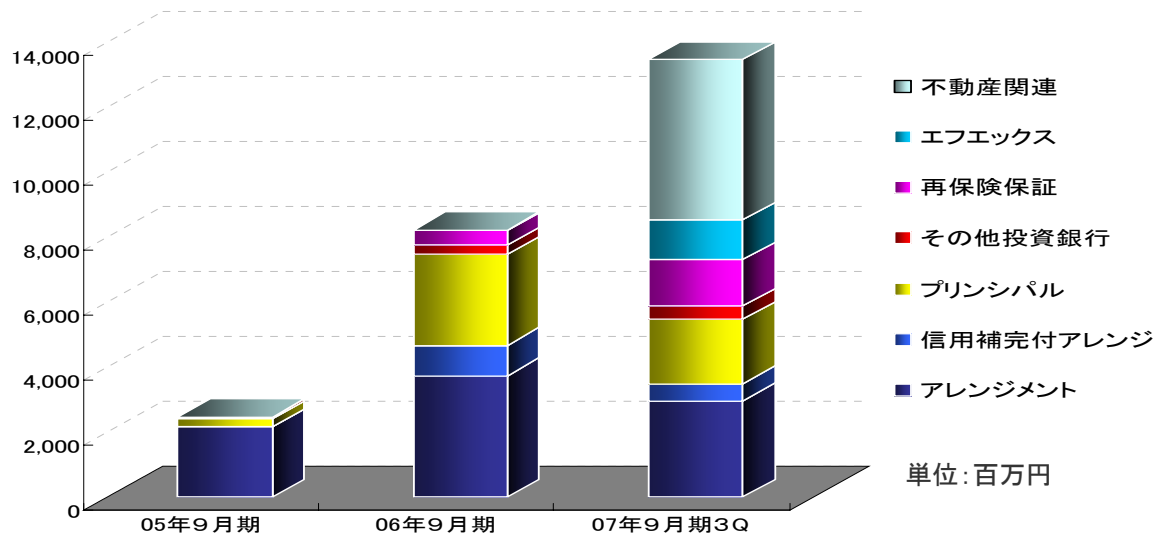
* 今期より総資産を営業取引に基づく資産と、その他の資産に区分し、その資産残高を基準として営業資産に対する金融費用を売上原価に、その他の資産に対する金融費用を営業外費用に計上しているため、原価率が増加。

連結/事業部門別 - 売上高構成表

(単位: 百万円)

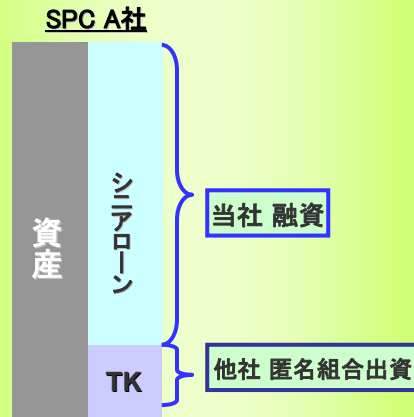
	05年9月期	(構成比)	06年9月期	(構成比)	07年9月期第3四半期	(構成比)
売上高合計	2,463	100.0%	8,231	100.0%	13,478	100.0%
投資銀行事業	2,463	100.0%	7,745	94.1%	5,874	43.6%
アレンジャー業務	2,150	87.3%	4,674	56.8%	3,486	25.9%
アレンジメント	2,150	87.3%	3,734	45.4%	2,957	21.9%
信用補完付アレンジメント	—	—	939	11.4%	528	3.9%
プリンシパル業務	257	10.4%	2,796	34.0%	1,995	14.8%
その他投資銀行業務	56	2.3%	274	3.3%	393	2.9%
再保険保証事業	—	—	476	5.8%	1,433	10.6%
エフエックス事業	—	—	—	—	1,221	9.1%
不動産関連事業	—	—	9	0.1%	4,948	36.7%

- プリンシパルファイナンス業務には、FRE(匿名組合出資による)・ASAPの連結業績を含んでおります。
- その他投資銀行業務には、FGSの連結業績を含んでおります。
- 再保険保証事業には、Stellar・Crane・イントラストの連結業績を含んでおります。
- 当第3四半期よりエフエックス事業が追加されました。
- 当3Qの不動産関連事業売上のうち36億円はSPCの販売用不動産の売上であります。また、FRE本体での仲介手数料の業績が不動産関連売上に含まれます。



連結SPCの保有物件売却による当社連結損益への影響について

SPC A社：
当社がローンの過半を提供。
エクイティ(匿名組合出資)
は他社が拠出。



⇒ 当社の持分割合はゼロであり、A社を支配する意図もないが、①債権保全のためローン契約上に一定の制限条項を付帯していること、②ローンの8割以上を拠出していることから、実務対応報告第20号Q1 3(1)の規定を厳格に適用し、実質的に支配しているものと判断して今期第2四半期より連結子会社として会計処理を行うこととなった。

本四半期において、A社保有物件を第三者に売却：

- ① 売却により売上約36億、原価約25億、経常利益約9億を計上
- ② A社の利益は、すべて「分配金」として匿名組合出資者に支払われ、P/L上は「少数株主損益」として利益からマイナスされるため、当期純利益は計上ゼロ

A社 P/L:

売上:	3,658M
売上総利益:	1,089M
経常利益:	898M
(少数持分損益: 898M)	
当期純利益:	0

当社連結P/L(A社連結前): 利益率

売上:	9,841M	-
売上総利益:	7,283M	74.0%
経常利益:	3,858M	39.2%
当期純利益:	1,752M	17.8%

A社 連結処理

当社連結P/L(A社連結後): 利益率

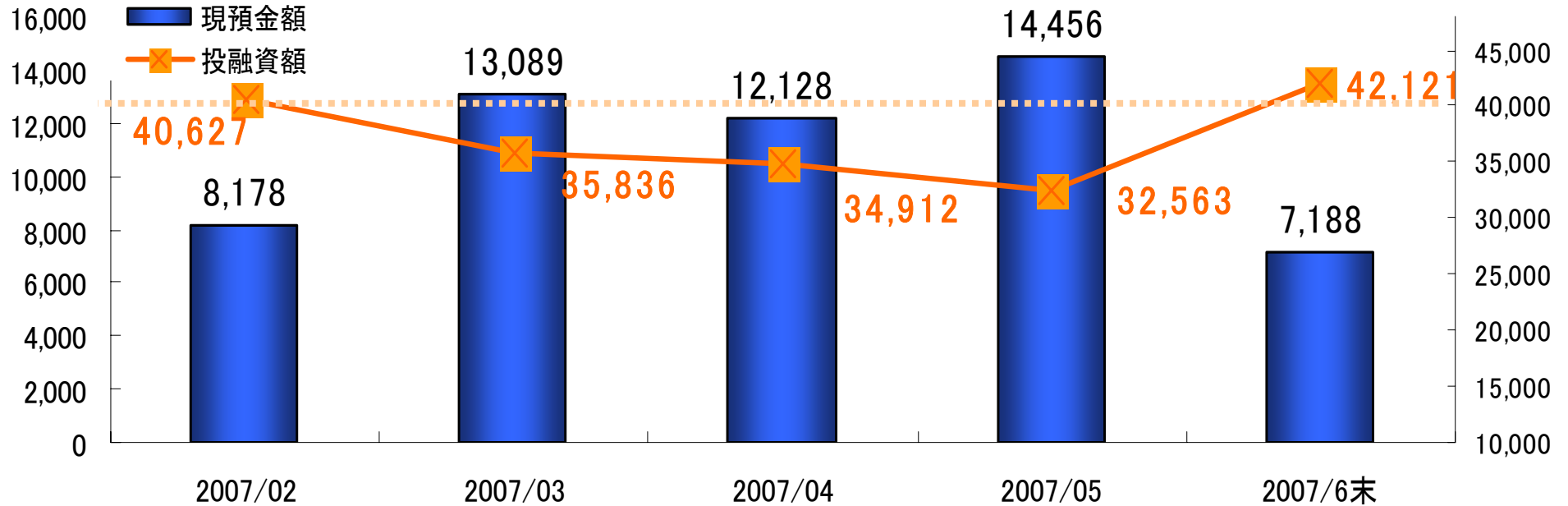
売上:	13,478M	-
売上総利益:	8,401M	62.3%
経常利益:	4,890M	36.3%
当期純利益:	1,752M	13.0%

※当社連結P/Lへの影響：
不動産売却により売上・原価が著しく増加する一方、税引後利益は計上されないため利益率が低下

補足資料 現預金及び投融資残高の推移(連結)

(現預金計/単位：百万円)

(投融資額/ 単位：百万円)



プリンシパル投融資に資金を回せず

:FXOの買収のため、加えて、短期借入金200億返済のための、ユーロ円CBが発行できなかった場合に備えキャッシュポジションを高めた。

現預金：FGIグループで投融資を行っている会社の現預金
投融資：FGIグループの投融資残高

2007年6月末 残高421億円

3Qにおいては、上半期の投融資の伸び悩みにより、金利収入が減少。しかしながら、案件ごとのリスクを精査した上で、積極的に資金投下を行ない、6月末には421億円の残高となった。Q4、来期以降の業績に寄与する見込み。

* 前回まで記載していた「現預金及び営業貸付金の推移」はFGIのみの数字でありましたが、子会社における投融資額が増加傾向にあるため、今回より、子会社における投融資(不動産関連投融資)も加味した数値としております。

營業概況說明

2007年9月期 第3四半期 営業概況 総括

1 営業面における2つのポイント

- 1：上半期のプリンシパルローンの不振を受け、金利収入の減少
⇒ 6末においては、FGIグループの投融資残高が421億円
投融資残高は着実に伸びており、4Qの金利収入増を期待
- 2：4Qに大型案件が偏重し、3Qには予定されていなかった
⇒ 4Qのアレンジメントに向けた準備を行った

2 連結SPCの保有する物件売却

➡ 売上・原価が著しく増加するものの、税引き後利益は計上されないため、利益率が大幅に低下

3 引続き高い成長性を維持（連結）

(単位:千円)

	2004/3Q	2005/3Q	2006/3Q	2007/3Q
売上総利益	294,174	1,161,139	4,688,837	8,401,385
EBITDA	525,918	750,249	3,463,491	5,709,909

EBITDA:
税前利益+支払利息+減価償却費
+のれん償却費

4 グループ会社の進捗状況は全社順調推移

(特にFRE、FXO、ステラは好調)

4Qでの取組み

1 プリンシパル業務の更なる推進

⇒ 8月1日よりメリルリンチとのJVによる新事業スタート

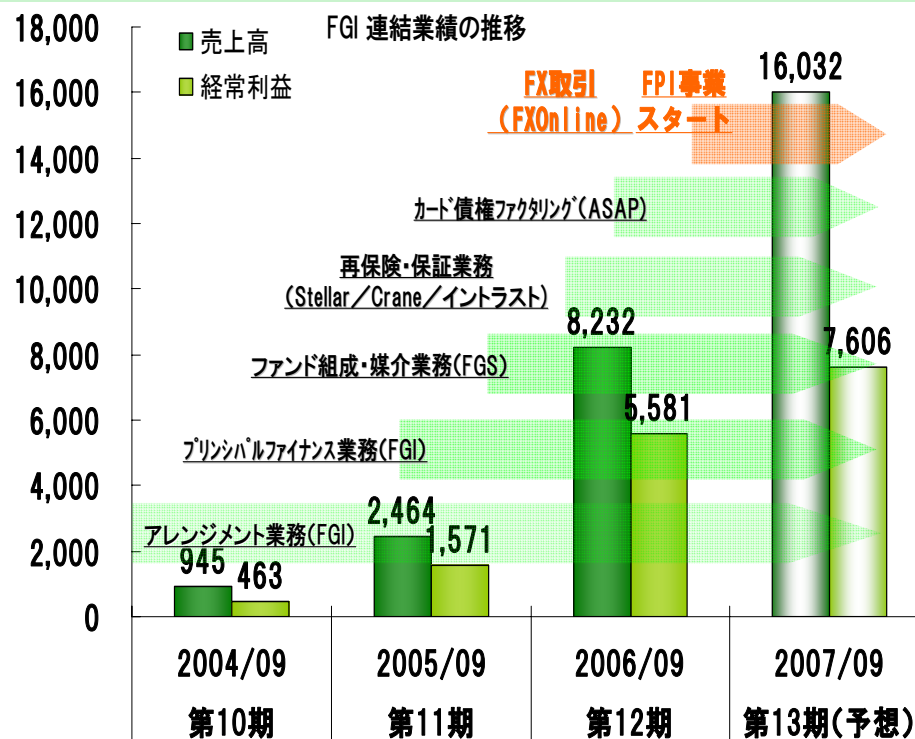
これまで組成困難であった大型、超大型案件が可能に
アレンジメント手数料、プリンシパル手数料増加を企図

2 4Qに予定している複数の大型案件の確実な組成

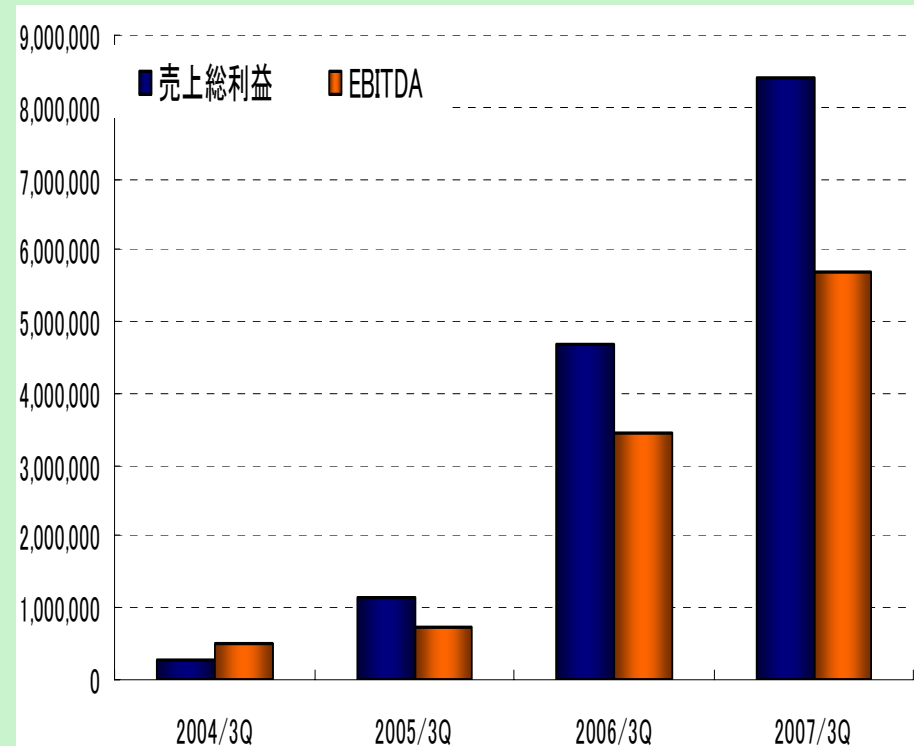
⇒ 予定されている大型案件の確実な取込、同時に予定されている
中小案件も確実に組成

持続的な収益の成長力

単位:百万円



▶ ストラクチャードファイナンスのアレンジメント業務中心から、プリンシパルファイナンス、信用補完、再保険、債権ファクタリング等、最先端かつ革新的な金融技術を駆使したビジネスモデルへの展開



	2004/3Q	2005/3Q	2006/3Q	2007/3Q
売上総利益	294,174	1,161,139	4,688,837	8,401,385
EBITDA	525,918	750,249	3,463,491	5,709,909

これまで新会社設立、M&A、新事業スタートなど業容拡大を図っている。
 今期に入ってから、FX0の買収により、のれん償却、少数株主持分損益が発生し、当社収益力を把握しづらくなっているため、今回より売上総利益及びEBITDAにて、収益力を表現しております。

投資銀行事業/アレンジャー業務の営業概況

アレンジメント

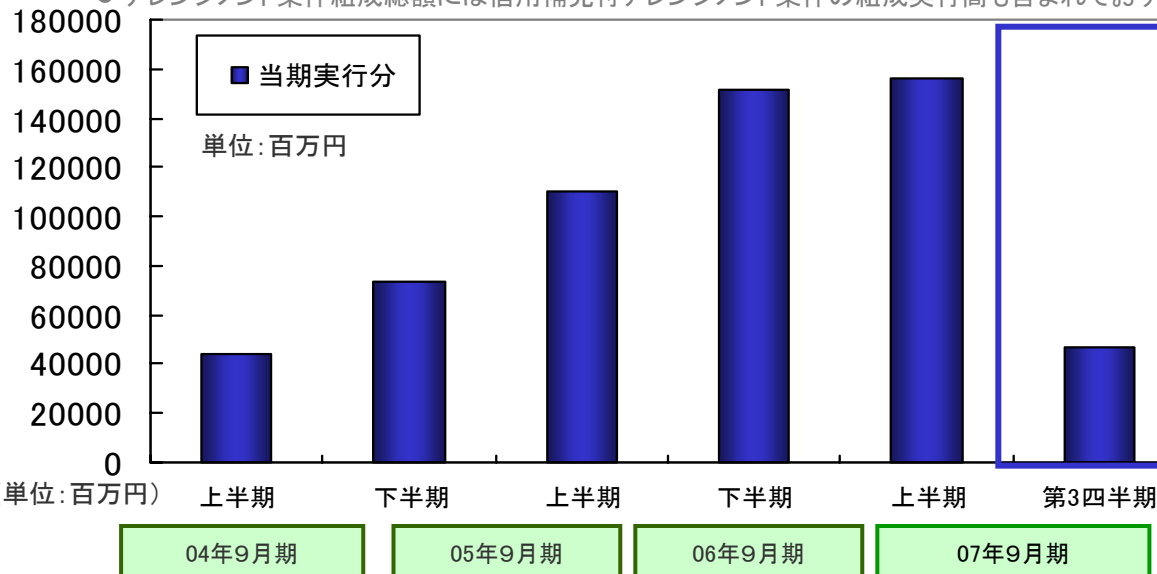
資産流動化等のストラクチャードファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家等プロジェクト参加者の招聘および意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等、さまざまな案件を具体化し組成します。

<当社アレンジメント案件組成総額推移> 個別

(単位: 百万円)

	05年9月期		06年9月期		07年9月期		06年9月期
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	第3四半期 (4~6月)	第3四半期 (4~6月)
当期実行分	43,699	73,483	110,445	151,806	155,732	46,379	51,719
売上高(アレンジャー業務; 個別)	840	1,310	1,926	2,753	2,941	671	1,129
クロージング案件数	14件	30件	29件	27件	29件	10件	11件
新規顧客獲得数	14件		6件	1件	6件	3件	0件

- アレンジメント案件組成総額とは、当社がアレンジした金融プロダクトに対する金融機関、投資家等からの投融资総額(調達資金総額)です。
- アレンジメント案件組成総額には信用補完付アレンジメント案件の組成実行高も含まれております



アレンジメント組成実行額は、前年度3Q比▲5,340百万円。低迷したものの、3Qにおいて3件の新規顧客を獲得、10案件をクローズ。

3Qに大型案件の予定がなく、4Qに偏重している。なお、第4Qにおいては予定されている大型案件の確実な組成により、新規実行の伸張を企図しております。

投資銀行事業/信用補完付アレンジメントの営業概況

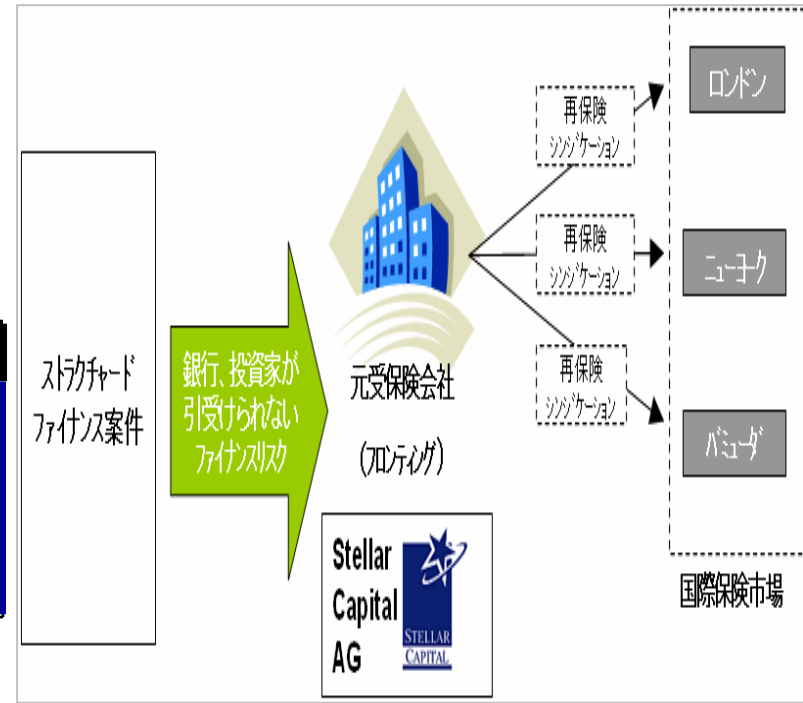
当社の「信用補完」は証券化や各種ストラクチャードファイナンスの仕組み上に存在するファイナンシャルリスクを「保証」などのカタチで保証会社や保険会社に引き受けさせ、仕組みの安定化を図るといったキャピタルリスクソリューションのことであります。この信用補完を案件組成に取り入れることにより、仕組みの安定化が図れ、結果として証券化コストが安価になるケースや今まで証券化不能であったものが組成可能となるケースもあります。

<当社信用補完付アレンジ実績>

	05年9月期	06年9月期
売上高	0	939
売上原価	2	32
売上総利益	-2	906

(単位: 百万円)

	07年9月期		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期
売上高	299	0	229
売上原価	8	0	9
売上総利益	290	0	220



信用補完業務のプロセスは以下のとおり:

- ①ストラクチャー(仕組み)上のリスクの切り出し
- ②切り出されたリスクの元受保険会社(フロントイング)の策定
- ③(ケースによっては)最終リスク引受者である再保険会社へのアプローチ

特に③の再保険会社へのアプローチが非常な労力と準備作業を必要とする。一般的な信用補完の場合、国際三大保険市場に存在する再保険会社のうち20社~50社程度が分散してリスクを引受けるため、シンジケーションに多大な時間がかかる。

当社では、信用補完業務の効率化、利益率の向上を図るため、2006年3月にStellar Capital AG を設立し、同社による信用補完引受を開始している。

投資銀行事業/プリンシパルファイナンス業務の営業概況

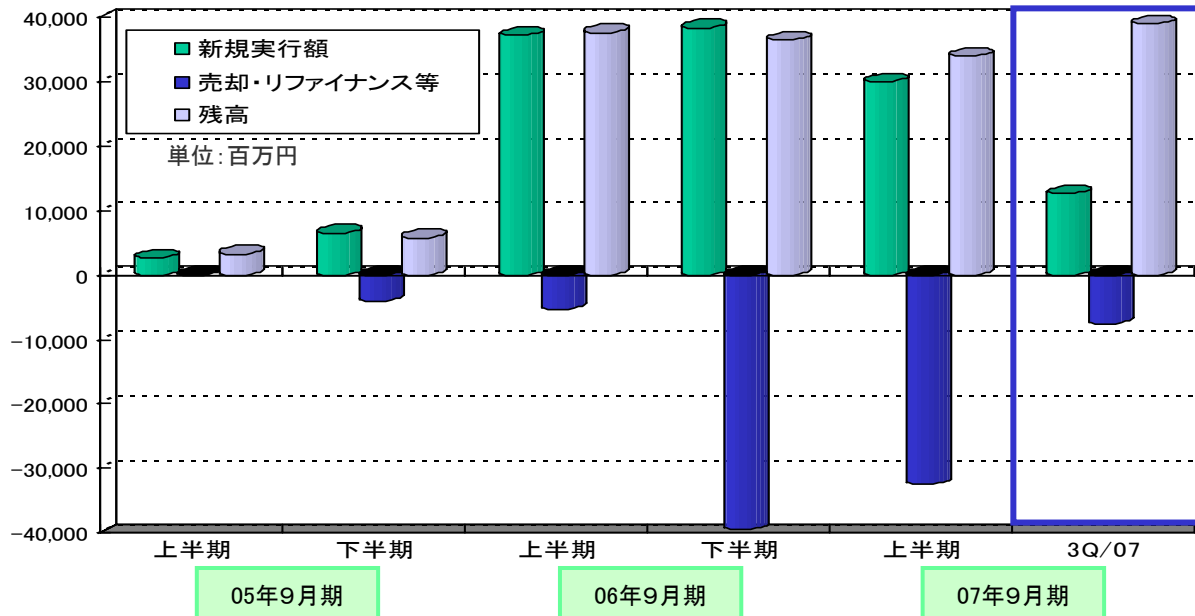
当社自身が資金供給者(投資またはレンダー)として、当社がアレンジしたストラクチャードファイナンス案件に対して投融資(匿名組合出資・メザニンローンなど)を行います。

<当社投融資実行残高>

(単位: 百万円)

	05年9月期		06年9月期		07年9月期		06年9月期
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	第3四半期 (4月~6月)	第3四半期 (4月~6月)
新規実行額	2,693	6,526	37,290	38,380	30,060	12,674	13,400
売却・リファイナンス・ アービトラージ	39	4,074	5,344	39,567	32,579	7,639	3,526
残高	3,295	5,747	37,693	36,506	33,987	39,021	47,567
売上高(個別)	28	228	860	1,777	1,538	594	783

* P13での子会社による投融資(主に不動産関連投融資)は含まれておりません。



2005年12月、2006年4月のMSCBの発行により調達した資金等を有効活用し、プリンシパルファイナンスを強化いたしました。

特に、開発前の土地仕入代金の資金(ブリッジローン)ニーズの高まりに対応することにより、その後のアレンジメント業務をより効率的に推進することが可能となっております。

売却・アービトラージ等を増やし、資本回転させることにより調達した資金の有効利用を企図しております。

3Qに大型案件の予定がなく、4Qに偏重している。なお、第4Qにおいては予定されている大型案件の確実な組成により、新規実行の伸張を企図しております。

投資銀行事業/その他投資銀行業務の営業状況

その他投資銀行業務には、主にアドミニストレーション業務収益とフィンテック グローバル証券株式会社(FGS)の収益が属します。

アドミニストレーション業務とは当社がアレンジした開発型証券化、流動化案件等におけるSPCの事務委託業務(案件期間中の不慮の場合の契約内容変更、協議事項が発生した場合の通知役やキャッシュマネジメント業務)を受託する業務のことです。

キャッシュマネジメント業務とは、当社がアレンジした開発型証券化、流動化案件等におけるSPCの事業資金計画書、年次予算計画書等の作成・改訂、入出金の是非の判断、入出金管理業務等を行う業務のことです。

フィンテック グローバル証券は、当社が組成するプロダクツ(ローン債権・有価証券等)の媒介や海外のオルタナティブファンドの販売を行っております。

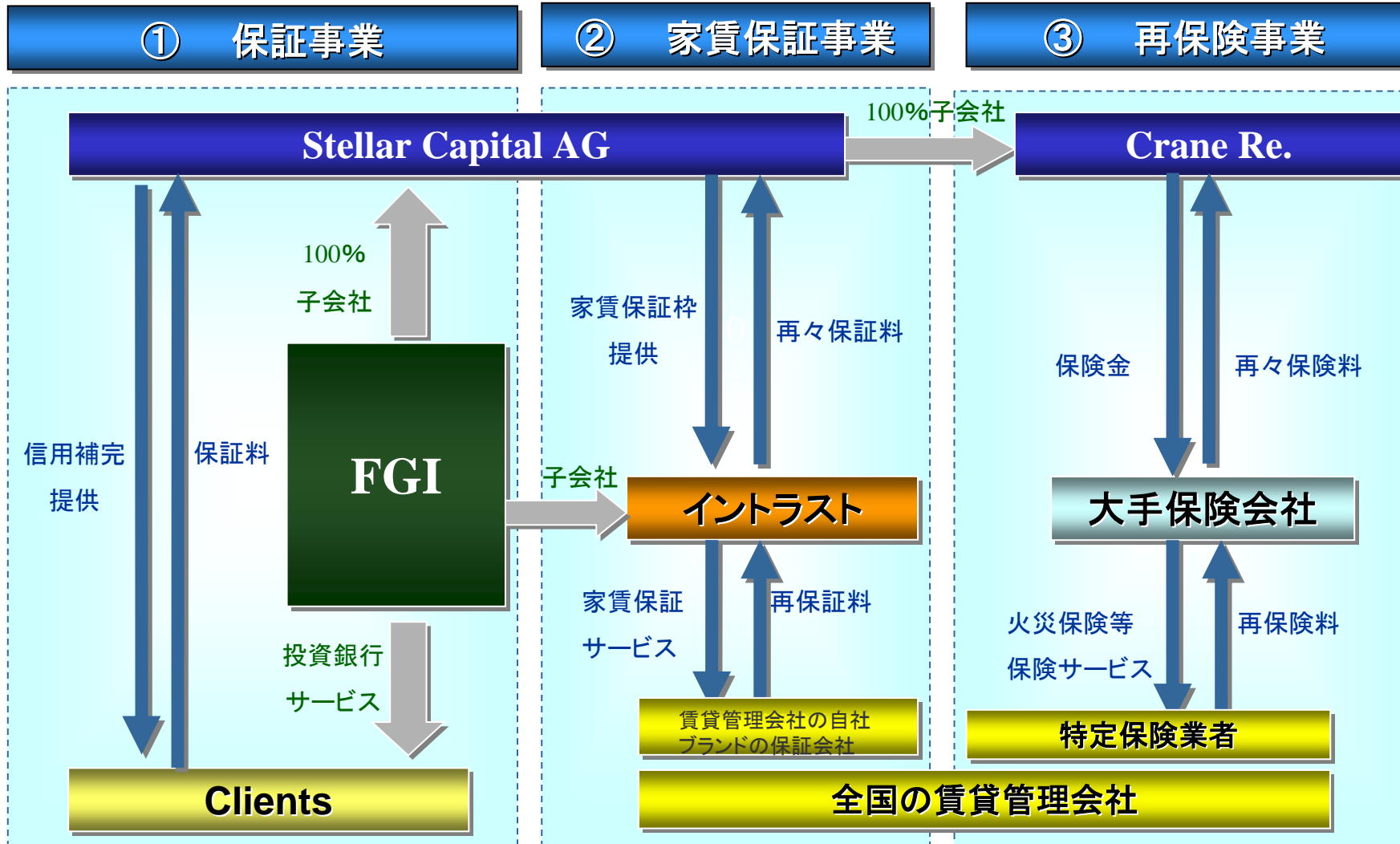
(単位:百万円)

連結	05年9月期		06年9月期		07年9月期	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	第3四半期
その他業務売上高	17	38	65	161	240	93
FGS	0	0	9	40	55	7

上半期においては、アレンジャー業務の拡大に伴い、アドミニストレーション業務にかかる手数料収入も順調に増加しました。また、フィンテック グローバル証券が媒介による手数料収入を計上しております。

再保険保証事業の営業概況

- ① FGIの組成案件における信用補完供与は、クライアント→Stellarへ 258,989千円(ネット収益)
- ② イントラストが行う滞納家賃保証や原状回復保証収益は、管理会社→イントラストへ 686千円
- ③ 再保険による収益は、管理会社→Craneへ 1,173,805千円(ネット収益)



プリンシパルファイナンスのポートフォリオ

(単位: 件、百万円)

種別	～6ヶ月			7ヶ月～12ヶ月			13ヶ月～18ヶ月			19ヶ月～			合計		
	金額	(シェア)	件数	金額	(シェア)	件数	金額	(シェア)	件数	金額	(シェア)	件数	金額	(シェア)	件数
建築確認前ブリッジ	15,640	40.4	4	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	15,640	40.4	4
開発型メザニン等	1,860	4.8	3	1,200	3.1	1	3,160	8.2	4	410	1.1	1	6,630	17.1	9
運用型メザニン等	5,369	13.9	12	530	1.4	2	1,412	3.6	2	2,051	5.3	7	9,361	24.2	23
その他(Non不動産)	3,980	10.3	5	1,670	4.3	2	1,212	3.1	1	200	0.5	1	7,062	18.3	9
合計	26,849	69.4	24	3,400	8.8	5	5,784	14.9	7	2,661	6.9	9	38,693	100.0	45

78.2%

当社のプリンシパルファイナンスポートフォリオの特徴として、貸付期間が12ヶ月未満という比較的短期間のローンが全体の7割以上を占めていることが挙げられます。当四半期におきましては、本年3月末の大型案件の回収があり8,850百万円まで減少していた建築確認前のブリッジローンの拠出が15,640百万円まで増加しており、建築確認前フェーズへの強いニーズを裏付けております。また、貸付期間が7～12ヶ月のものも含めると、全体の78%を占めております。

当社としましては、資金効率及びリスクコントロールの観点から、引き続きブリッジローンを中心とした貸付期間の短い案件に対して積極的に資金投下していくとともに、貸付期間が1年を超える開発型メザニン・運用型メザニン及びその他(Non不動産)へのローンについては、売却をすることで資金の回転率を高め、新たな収益機会の獲得を目指していく所存です。

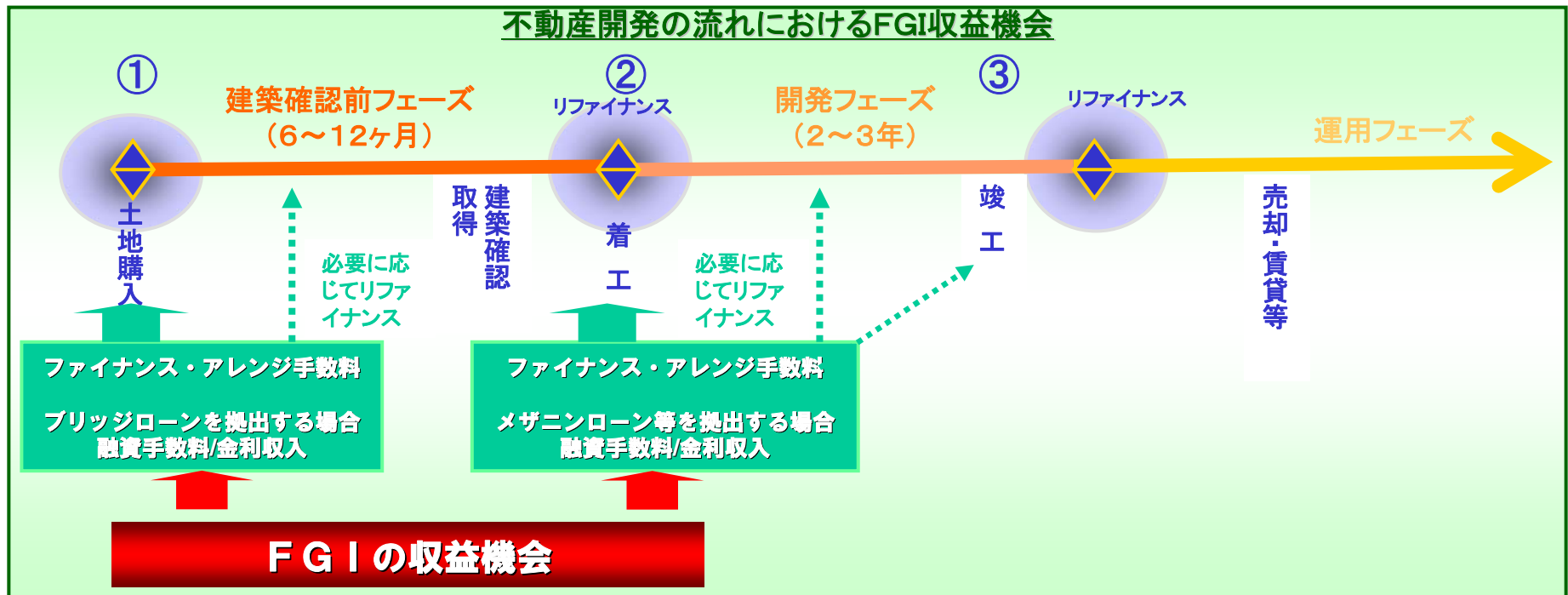
<不動産開発及び運用についての流れ>



補足資料 FGIの開発型証券化アレンジにおける複数の収益機会

- ① 建築確認前のブリッジローンファイナンス
- ② 着工時のリファイナンス
- ③ 竣工時のリファイナンス

上記3つのファイナンス・アレンジメントをオリジネーター（不動産ディベロッパー等）に提供することにより1つの案件から複数の収益機会を得ているが、最近の特徴として、①の不動産開発における当初の土地購入から建築確認取得までのブリッジローンをFGIが供与することが、②の着工時のファイナンス・アレンジメントの獲得に貢献しているケースが多い。①でローンを供与するプレイヤーが不足する中で、FGIの競争力は強い。



メリルリンチとの共同出資による JVのスタート

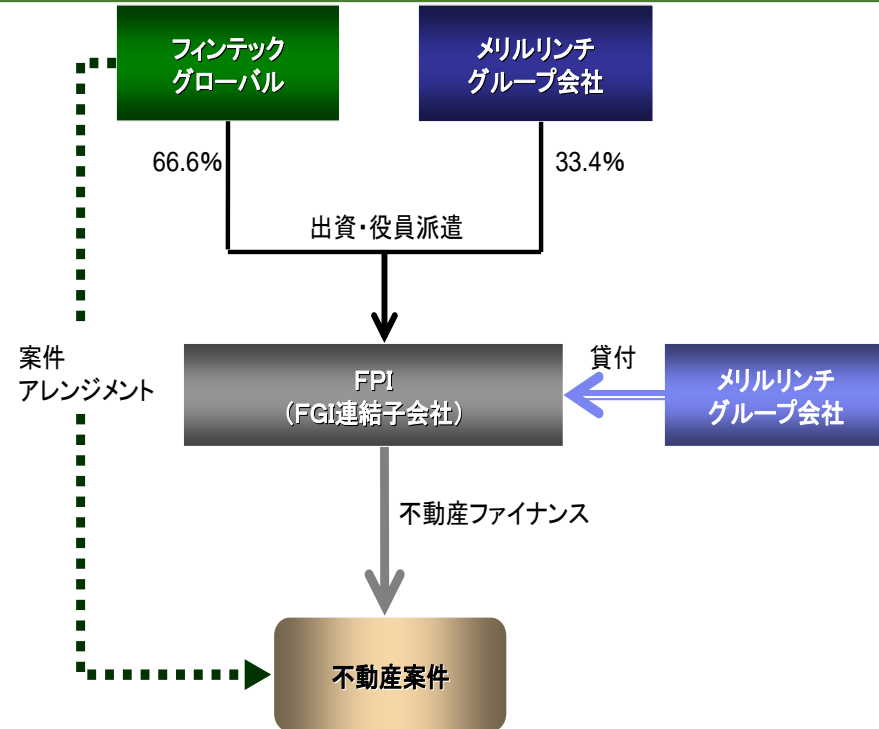
フィンテック プリンシパル インベストメント株式会社概要

平成19年8月1日、メリルリンチ・グループと共同出資し、当社の不動産案件に対し、プリンシパルファイナンスを専門的に行うフィンテック プリンシパル インベストメント株式会社 (FPI) をスタートいたしました。
当社が案件組成、アレンジメントを行う不動産案件に対し、メリルリンチ・グループのファイナンス力を活用した業務の拡大を目指してまいります。

会社概要

会社名	フィンテック プリンシパル インベストメント株式会社	
本店所在地	東京都港区虎ノ門四丁目1番28号 虎ノ門タワーズオフィス	
事業開始	2007年8月1日	
資本金	資本金2,800万円	
	フィンテックグローバル株式会社	66.6%
	メリルリンチ関連会社	33.4%
代表取締役	代表取締役 藤井博志 (フィンテックグローバル株式会社 不動産プロジェクト営業部長)	
業務内容 その他	当社の取扱う不動産案件に対する プリンシパルファイナンス業務	
	* 一件あたり100億円以上の大型案件を想定	

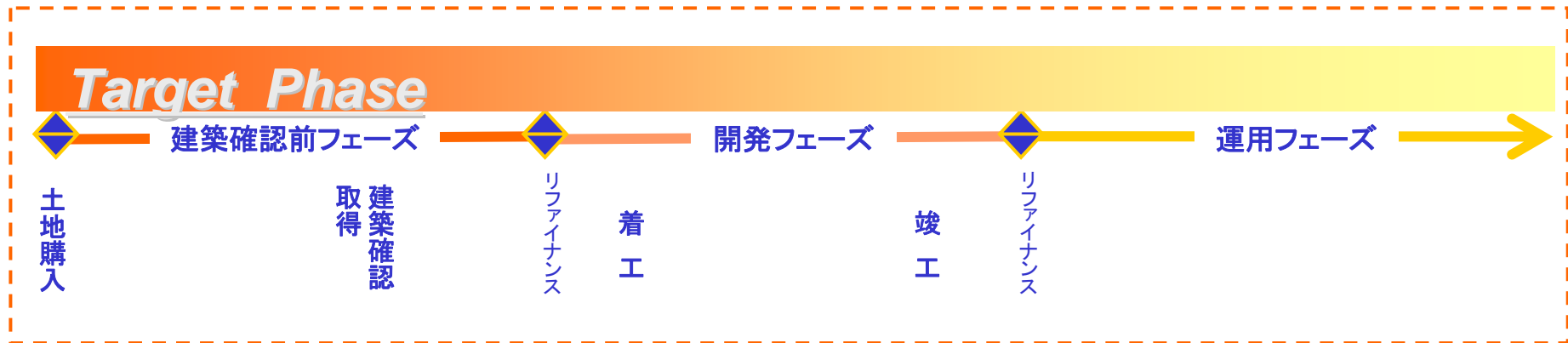
スキーム



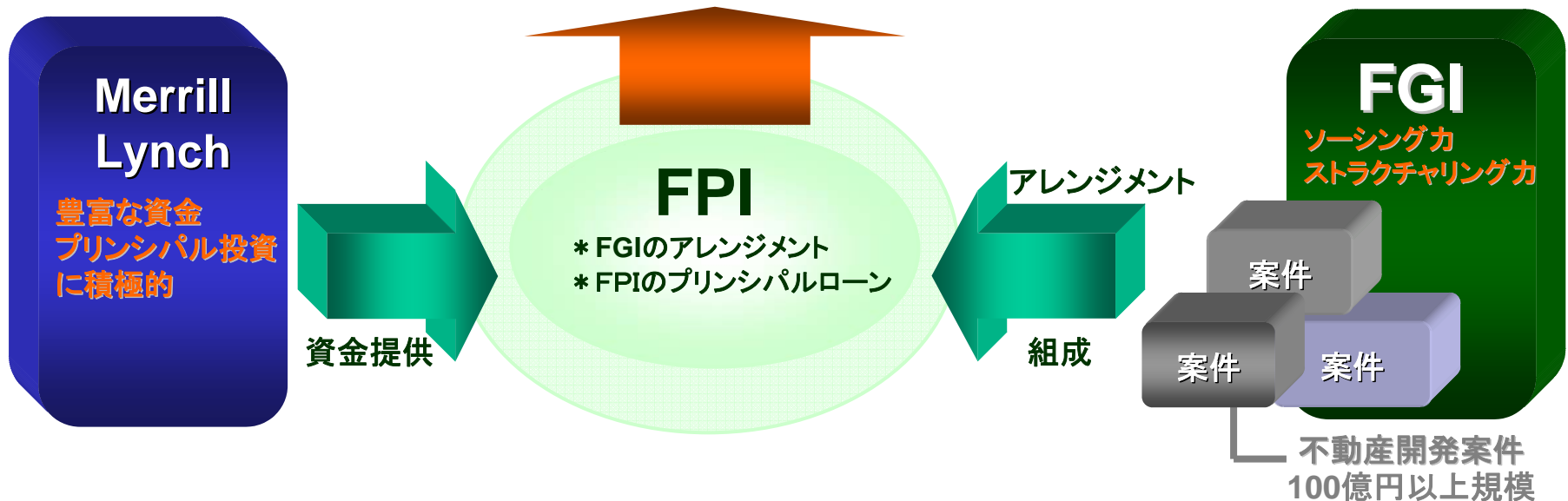
* FPIの不動産ファイナンスによる債権は、譲渡していくことで財務バランスをコントロールしていく予定

補足資料 メリルリンチとの共同出資事業の概要

2007年8月1日、メリルリンチ・グループの協力により、新事業をスタート。
 当社の取扱う不動産案件に対するプリンシパルファイナンス業務を積極的に行って参ります。

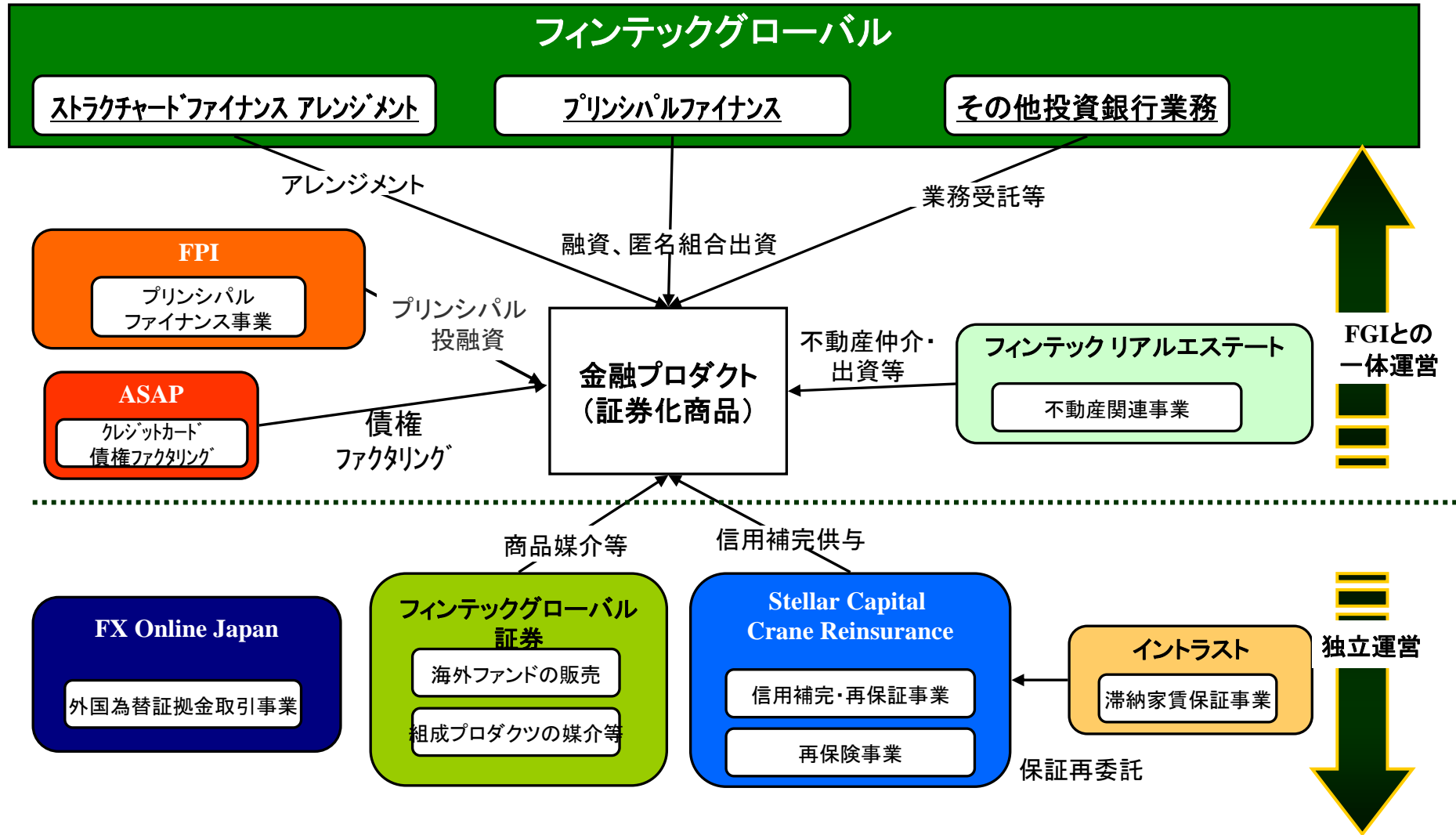


不動産開発フェーズにおける積極的な業務展開



グループ会社の実績

FGIグループ相関図



グループ会社別業績進捗の状況

(Stellar Capital/Crane Re) (フィンテックリアルエステート)

(単位:千円)

	第3四半期	通期予想 2007/9	進捗率(%)
売上高	1,447,501	1,719,876	84.2
経常利益	340,326	276,477	123.1
当期純利益	305,064	301,159	101.3

(単位:千円)

	第3四半期	通期予想 2007/9	進捗率(%)
売上高	445,900	521,400	85.5
経常利益	380,303	472,955	80.4
当期純利益	225,504	248,171	90.9

※上記はすべてフィンテックリアルエステート単体の数値です

<会社概要>

弊社の信用補完引受及び再保険引受を目的に2006年3月に設立。

主要業務は①当社の信用補完業務 ②当社グループであるイントラストの再保証引受業務 ③保険業法改正により増加する国内共済の再保険引受業務の3本柱。

<レビュー>

本四半期において新たに2案件に信用補完を提供、保証料売上として36百万円を計上した。また、資金運用も引き続き好調で99百万円の利益を計上、本四半期末時点で通期予算達成となった。

<会社概要>

当社が組成するアレンジメント案件から派生的に生じる不動産分野の収益機会(仲介・投資等)を取り込むことを目的として設立。

<レビュー>

本四半期において不動産売買仲介を2件実行し、売上424百万円、経常利益403百万円を計上。通期予想に対し90%強の進捗率となった。通期予算達成に向け、引き続き案件獲得に注力する。

(エフエックス・オンライン・ジャパン)

(フィンテック グローバル証券)

(単位:千円)

	06/4-07/3 12ヶ月実績	第3四半期	07/4-07/9 6ヶ月予想	進捗率 (%)
売上高	3,971,981	1,221,214	2,345,995	52.1
経常利益	2,836,522	836,085	1,535,636	54.4
当期純利益	1,706,140	495,469	844,601	58.7

※下半期の進捗率。標準で50.0%。

※参考実績値(連結対象ではありません)

※FXOは3月決算

※本四半期からBS,PL共に連結

<会社概要>

外為証拠金取引事業を行う。本年3月23日をもって、同社株式発行済株式数の44.99%となる3,149株を取得し連結子会社となった。PLに関しては第3四半期から連結。

<レビュー>

本四半期においては、競争力強化を目的として6月にスプレッドを業界最低水準(USD/JPYで5→3Pips)に引き下げた。この結果、1取引あたりの収益はややマイナスとなったが、新規顧客数及び取引ボリュームの増加により、売上は予想を上回る結果となった。また費用面でも、増加が見込まれたマーケティング費用等が予算を下回り、利益ベースでは更に高い進捗を達成した。

(単位:千円)

	第3四半期	通期予想 2007/9	進捗率 (%)
売上高	62,366	94,038	66.3
経常利益	-105,225	-139,754	-
当期純利益	-105,521	-138,417	-

<会社概要>

当社が組成する案件の債権等を証券化し投資家市場へ販売すること、並びに海外投資信託やヘッジファンドを中心とした代替投資商品の組成販売を目的として設立。

<レビュー>

本四半期においては、海外ファンド等の機関投資家への販売は引き続き堅調であった。また、当社の不動産開発案件におけるローン債権の証券化、パートアウトについての取り組みも進んでおり、第4四半期以降に収益化できる見通し。

(インフラスト)

(エーサップ・ペイメント・システム)

(単位:千円)

	第3四半期	通期予想 2007/9	進捗率(%)
売上高	3,113	43,298	7.2
経常利益	-91,111	-102,065	-
当期純利益	-91,127	-102,148	-

※上記は連結調整前の数値です

<会社概要>

滞納家賃保証システム事業を目的に2006年3月に設立。

<レビュー>

本四半期においては、既存顧客からの売上は堅調に積み上がった。また新規大口顧客との商談も複数まとまりつつあり、今期末から来期首にかけてまとまった収益が確保できる見通し。

(単位:千円)

	第3四半期	通期予想 2007/9	進捗率(%)
売上高	3,784	8,384	45.1
経常利益	-307,552	-329,610	-
当期純利益	-307,672	-329,685	-

<会社概要>

クレジットカード債権のファクタリング事業を目的に2006年6月に事業開始。

<レビュー>

本四半期においても、売上の拡大には至らず。4Q中に、抜本的な施策を行う予定。